

令和6年度第2回瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略推進会議 会議録（案）

1. 日時 令和6年9月26日（木） 10:00～11:30
2. 場所 瑞浪市役所 2階大会議室
3. 出席者 木村 秀明
松井 廉
浅野 崇
堀尾 憲慈
佐伯 さほり（座長）
中村 佐記子
梅村 やよい
[名簿順、敬称略]
4. 欠席者 景山 英明
藤田 好恵
[名簿順、敬称略]
5. 瑞浪市 正木 英二（みずなみ未来部長）
6. 事務局 工藤 雄一（企画政策課長）
津田 良介（企画政策課企画政策係長）
三浦 啓輔（企画政策課企画政策係員）
7. 日程
 1. 座長あいさつ
 2. 議事
 - （1）第1回会議録（案）について
 - （2）2次評価について
 3. その他

1. 座長あいさつ

2. 議事

(1) 第 1 回会議録（案）について【資料 1】

(2) 2 次評価について【第 1 回資料 5】

【商工観光課より事業説明】

1. 観光コンテンツ造成事業
2. ゴルフの町みずなみ PR 事業
3. 東濃圏広域観光 PR 事業

1. 観光コンテンツ造成事業

(委 員) 体験型コンテンツとはどういったものか。

(商工観光課) 昨年度は、「あふれる愛で、クセ強し。」をキャッチフレーズとして冊子と動画を作った。2 つの造成事例を紹介する。1 つ目は、カマドブリュワリーの工場見学と美濃焼のビアカップで飲み比べができる体験である。こちらは、3,500 円で所要時間は約 1 時間で体験することができる。2 つ目は、鬼岩観光協会による鬼岩名物岩穴くぐりのガイドツアーとおにぎり御膳付きの体験である。こちらは、5,000 円で所要時間は約 2 時間で体験することができる。

これらのコンテンツを造成するにあたり、事業者を募集し、その事業者の個性に応じたものとしている。

(委 員) それぞれの体験型コンテンツに参加した人数やどこから体験に来られたのかは把握しているか。

(商工観光課) そういったデータは手元にはないが、体験型コンテンツによる総売上は 3,630 千円である。

(委 員) KPI 値は事業者の数か、体験型コンテンツの造成数か。

(商工観光課) 体験型コンテンツの造成数である。

(委 員) 事業者は毎年変わるのか。

(商工観光課) 毎年変わる。

2. ゴルフの町みずなみ PR 事業

(委 員) KPI より実績値が低い、低いには様々な理由が考えられる。一般的にゴルフ人口が減っていると考えられる。そう考えると実績値が減少していくのは、仕方ないと思うので評価の仕方が変わると思う。

(商工観光課) 世の中の傾向からすると、コロナ禍でゴルフ需要は一時的に上昇した。現在はそのピークは越えたと考えられる。この計画の策定時の実績が 5 万 5 千 4 百人からすると若干増えているので、世の中の流れと同じ動きをしていると考えられる。

(委 員) 世の中の動きを捉え、どれだけ数値を伸ばさないといけないのかを視点に考え、事業を進めると良いと思う。

(委 員) KPI 値はゴルフ場に来た人数か。

(商工観光課) そのとおりである。

(委 員) ゴルフ“場”のまちではないか。ゴルフ場が多いだけで、市民のプレイヤーが多いとあるとか、多額の税収がありゴルフ事業が充実しているわけではないと思われる。ゴルフの町として発展するためには、帰りに寄りたい観光施設があると良いかと思う。

老朽化によりメンテナンスが難しいゴルフ場があると思う。ゴルフ場に来られる方を KPI とするのであれば、各ゴルフ場側に努力していただく必要があるのでは他の KPI が良いと思う。

(商工観光課) オープンゴルフ大会の予選会におきまして、景品に地元産のものを多く出して PR している。しかしながら、ゴルフをプレイした後に市内を観光していただくことに関しては課題として認識しているので、解消できる事業を検討したい。

(委 員) 小学生にスナッグゴルフを体験してもらうことは、ゴルフ人口の裾野を広げる上で非常に良いと思う。また、オープンゴルフ大会には県外から多数の方が来られているのも良いことだと考えられるが、市の最終目標である人口増加につながっているのかと疑問に思う。

(委 員) スナッグゴルフではなく本物のゴルフを体験する機会はあるのか。

(商工観光課) 現時点ではないと認識している。

(委 員) 息子が明世カントリークラブにゴルフ体験に行って、現在も打ちっぱなしに行くことがあるので、本物のゴルフに触れる機会もあると良い。

(委 員) スナッグゴルフの競技人口を増やしたいのか。

(商工観光課) 競技人口を増やしたいわけではなく、スナッグゴルフを通じてルールや礼儀を学ぶことができるので教育の面からも普及していきたい。

3. 東濃圏広域観光 P R 事業

(委 員) KPI 値は東濃全体のものか、瑞浪市のみか。また、どのようにカウントしているのか。

(商工観光課) 瑞浪市のみである。きなあつ瑞浪やゴルフ場など市内を代表する観光施設の来場者数を合計しているものである。

(委 員) 負担金は、東美濃の 6 市 1 町で異なるのか。

(商工観光課) 御嵩町のみ異なる。

【シティプロジェクト推進課より事業説明】

4. 瑞浪駅周辺再開発事業

5. 道の駅整備事業

4. 瑞浪駅周辺再開発事業

(委 員) ありきたりな計画のように感じる。駅に降りた瞬間に何か違うな、と思われる事業にしてはどうか。第一印象が大事であり、何か感動あたえるようなインパクトがあるものが良いと思う。こういった事業は、ある程度夢を持って計画したほうが良いと思う。

(委 員) 駅周辺のハザードマップを見ると最大浸水想定が 10～20m あり、また、液状化についても非常に危険であることが懸念される。どのような安全対策を設計に入れているのか。

(シニアプロジェクト推進課) おっしゃる通り、駅周辺地域が概ね浸水する想定である。市としては、そのリスクが分かった上で、この中心市街地で利用している皆さんと共に暮らしていく必要がある。

新たに建設する施設については、重要な機械を浸水しない高いところに設置するなど対応していきたい。

現在の安全対策としては、ハザードマップなどのソフト面で対応していくことが基本となる。

(委員) 駅周辺の再開発はどの都市でも課題だと思う。瑞浪市としての特徴があると良いかと思う。この計画では、目新しさを感じない。例えばゴルフのまちとして PR するのであれば、ゴルフ場へのシャトルバスが駅から出ていたり、駅を降りてすぐのところにパターの練習場があるなど、何かまちの特徴があると面白いと思う。

人口が減っていく中でも、商業施設のテナントに入っていただく方に 10 年、20 年継続していただけるよう十分検討なされると良い。

(委員) 過去に名古屋方面に通勤していた。駅近くに車を駐車して、すぐ電車に乗れるのは魅力的に感じていたが、このパース図を見ると駐車場が遠くに感じる。名古屋圏のベッタタウンとしては改善すべき点であると思う。

(シニアプロジェクト推進課) 瑞浪駅北駐車場が無くなるわけではない。また駅北に改札ができるのでより近く感じると思う。

(委員) オリンピックで注目を集めたスケートボードができる場所が駅南側にあっても良いと思う。今の中高生はスケートボードがやりたくてもやる場所がない。

既存の瑞浪市の資源を活用することも大切だが、社会のニーズを捉え、新たなものを取り入れるのも良いかと思う。都心圏では、e スポーツジムと言われるものがあり、子どもたちに好評である。商業施設にどのようなものが入るのか分からないが、子どもたちがワクワクするものがあって、自然と集まってくるような施設になると良い。

(シニアプロジェクト推進課) 中京高校には駅南側の施設で e スポーツ部の活動をしていただいている。
市では駅南側に M ビルを設置し、主に自習施設として学生に利用いただいている。その他、多目的室、駅前広場を活用したキッチンカーなど様々な社会実験を実施している。その実験を通じて社会のニーズを捉え、再開発事業に反映させたいと考えている。

(委員) 広報を読まないであろう若者に向けてどのように PR しているのか。

(シニアプロジェクト推進課) 駅周辺の再開発に若い世代にも興味を持ってもらいたいと考えている。直近の取組としては、二十歳の祝典にて駅周辺での社会実験等を PR した。

今後は SNS を活用した PR を考えていきたい。

5. 道の駅整備事業

(委員) 多大なる期待を寄せている。道の駅を建設予定地周辺には現在何かあるか。

(シニアプロジェクト推進課) この周辺には圃場整備された田んぼのみである。

この道の駅は「まちとともに育つ道の駅」をコンセプトに掲げ、地元の方々の意見を反映しながら進めていく。2つの川が合流する箇所であるため、防災面で心配だが、専門家の意見を伺いながら進める。

(委員) 近くにあるきなあた瑞浪との棲み分けはどのようなか。

(シブプロジェクト推進課) きなあた瑞浪のメインである農産物を道の駅では売らないなどしない予定である。道の駅は指定管理者制度による民間事業者運営に委託することになるかと思う。共存できる事業内容で運営できる事業者を選定したいと考えている。

(委員) ケーブルテレビにて道の駅を題材にした番組をやっている。岐阜県は北海道の次に道の駅が多い県である。取材していると衰退している道の駅も多いので、何か体験することができる特色ある道の駅になると良いと思う。

【上下水道課より事業説明】

6. 水道老朽施設更新事業

(委員) AIを使ったとあるが、管路の大きさなどから予想されたデータをもとに危険な箇所から修繕するという認識でよいか。また、あくまで数値上であるため、実際どうなっているのかまだ現場と突合していないということで良いか。さらに現場を修繕した結果をデータに反映し、精度をあげていくということによいか。

(上下水道課) その認識でよい。

このAI技術について補足して説明すると、この事業は民間事業者委託して実施している。その事業者が蓄積した全国の診断データを用いてAIで判定するものである。

また、別の技術になるが、瑞浪市は令和4、5年度に人工衛星を用いて漏水箇所を特定する事業を行っている。これとAIを併用することで、より精度の高い診断ができ、今後の更新計画に生かしたい。

(委員) 過去に民間企業に所属していた時に、通信の管路やマンホールなどを、AIを用いて修繕箇所を予測することをやっていた。管理していた管路は総延長が長く、時間とお金がかかっていた。私の経験からAIでの診断と現場では異なることが多くあったので、しっかりと現場を検証しながら実施すべきである。そうすることでコストが削減できると思う。

(委員) なかなかわかりづらい事業である。どのようにこういった事業をPRするべきか検討されたい。

(委員) これから起こりそうな地震、例えば南海トラフ地震で想定される震度を反映しているか。

(上下水道課) 土壌の分類、河川からの距離、気象、鉄道の距離などで判断、評価しているので、地震のデータは入っていない。

【健康づくり課より事業説明】

7. 東濃地域医師確保奨学金基金負担事業

(委員) 後期高齢者の人口が今後増えることが予想されるため、医師確保は重要である。

奨学生が必ず、東濃厚生病院に入ってもらえるようアプローチをしているのか。

(健康づくり課) 年1回、現況届を提出するようにはいただいている。東濃厚生病院から奨学生に対し、お声がけいただき、就職する前から良好な関係を築くことが大切であると考えている。

(委 員) 北海道は医者が来ないからと家を与えたり、給料を異常に高くしたりしているが、それでも医者不足という現状がある。医者にとって、もっとインセンティブがあると思われる程度の奨学金を与えても良いと思う。

事業効果はCとあるがもっと良い評価をしても良いと思う。また、もっと良くなる可能性があると思う。

(健康づくり課) 医師の確保が全国的な問題である。事業を開始してから、東濃厚生病院を希望する医者は、平成27、28年度はいなかったが、近年は毎年確保することができている。もし、この貸付金額で応募がなくなるようなことが起きた場合は、見直しを検討する。

また、令和6年度は、瑞浪市民の2名が、岐阜大学医学部の地域枠に合格し、県から修学資金を貸与いただいている。様々な制度を使いながら医師確保に努めたい。

(委 員) この事業は東濃厚生病院に限ったものか。総合病院の医師のための制度も必要ではあるが、かかりつけ医を増やす政策も必要であると思う。

(健康づくり課) 今のところ、瑞浪市の一次医療、かかりつけ医が足りていないわけではないが、今後医師の高齢化等による医者不足も想定されるため、参考にさせていただく。

(委 員) 令和4、5年度の実績値は同一人物をカウントしているのか。

(健康づくり課) 異なる人をカウントしている。

【市民協働課より事業説明】

8. 自治会加入促進事業

(委 員) 多治見市のある町の町内会長をやっている。自治会への加入者が減り続けている。1つの要因として、町内会・区独自の行事が非常に多く、若い人が負担に思っていることが考えられる。町内会の役員経験者、いわゆる重鎮の方が、いずれの行事も何とか続けなければならないという考えの人が多く、若い人を巻き込んで行事を行うことができていない。行事そのものの見直しが必要だと感じている。自治会に加入することで、災害時などで共助し合える関係性を築ける。自治会加入者を増やすとまではいかないが、いかに減少を食い止めるかが重要である。

既存の行事を行うだけでなく、新しいことを取り組むことも必要だと思う。会議そのものも負担ではあるが、役員の負担を減らすためには、区長、町内会長、班長、組長などで多くの話合いの場が持たれると良いかと思う。

(市民協働課) 瑞浪市も現状は同じである。行事の見直しは必要であると認識している。話合いの上で、行事内容の精査が必要であるので、自治会からの相談を受けるなど伴奏支援をしたい。

大湫町はまちづくり活動が盛んである。世代に関係なく、どれだけ意見を言い合えるかが重要と考える。ファシリテーターのような第三者の存在がいるとより話合いが円滑に進むと考える。

(委 員) 私も自治会の役員をやっている。高齢者が自治会に入っているメリットがないと退会された。ゴミ捨て当番や草刈りなど、やらなければならないことが多すぎると同った。

そのような中、福祉委員が高齢者の自宅を訪問する取組があることを知った。自治会に入っている人の中で、その取組を知らない人が多いため、それを周知することはもちろん、皆が高齢者に対し自治会に入る意義や制度を説明できるよう周知することも必要である。

実績値を計算する上で、施設入所や学生寮入寮における住民票の異動を全体数に含めると実績値が下がってしまうが、それらは含まれているか。

(市民協働課) ご意見のとおりメリットはお伝えしなければならないので引き続き PR していく。

高齢者の施設に住所を移した方などについては除外して計算している。

(委 員) 自治会に加入・参加することに対し、行政が入るべきものなのか。自治会加入の促進が地域のために活動しようという行動に繋がるかが疑問である。

(市民協働課) 多様性の時代になって、自治会に参加しなくても個人で生活できるようになっている。自治会自体が魅力的な組織かどうか重要である。自治会に加入して自分のやりたいことができる仕組みになることで加入する意義が生まれてくると考える。

(委 員) 実績値の自治会加入率 65% は全国平均や県平均と比較して高いのか低いのか。

(市民協働課) 国平均よりは高く、県平均よりは低い。

(委 員) この事業について、市の予算がない中でどうやって自治会加入の促進をするのか。自治会のメリットをどのように PR していくのかが非常に難しいと感じる。

(市民協働課) 令和 7 年度から予算をつけて実施していきたいと考えている。

現在、自治会に加入しても役割を与えられて、何かやらされているように感じてしまう。自治会で何をしたいのか自分たちで考えていただくことが重要であると考え。

(委 員) 「自治会」という名前のイメージが悪い。何をやっている組織かわかる名前のほうがイメージが良いと考える。

インターネットが普及し、わざわざ集まらなくても SNS 等を活用して情報を共有することができる時代になったので、そういった仕組みづくりも良いのではと考える。

(市民協働課) 自治会がおもしろいと思ってもらえることが入るきっかけになると考える。

自治会の ICT 化も検討したが、若者など慣れている方は良いが、全体が対応しきれないので、小グループから進めるなど、引き続き模索、検討していきたい。

(委 員) 私は高齢化が進んでいるところに住んでいる。高齢者をサポートするためにゴミ出し等をするボランティア団体を立ち上げようと声をかけられたが、その際に、区は巻き込まないようにやりたいと言われた。区の仕事が増え、役員のなり手がより減ってしまうからとの理由であった。

新しいことをするため、今やっていることを変えるために、区の規約を変えようとしたが、非常に大変であると感じそこまで至らなかった。現在の状態は、時代に合わず、まちを良くしようと思う人が非常に動きづらいので、そのような実態の把握をした上で、行政にメスを入れてほしい。

(市民協働課) 自治会の中で話し合いがうまくできていないことが一因であると考え。一気には進まないで、少しずつ進めると良いと思う。

3. その他

- ・評価シートの提出期日 10月10日（木）
- ・第三回推進会議の日程 10月29日（火） 14時から 2階大会議室

以上